THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

女學雜誌

明治二十年五月五日

定價金四錢

每月三回發行

第五十九號

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目錄

〔女學叢誌〕婚姻論〔第三〕●〔中外新報〕拾數件●〔學藝一斑〕食物の事●〔手藝一斑〕毛糸編物●〔列女傳〕倭文女の傳●〔論說〕女學生の心得〔穗積陳重君述〕○仕來の事〔矢田部良吉君述〕●〔新作物語〕閨の徹夜燈〔家政要報〕數件●〔御伽草〕數學問題○考物の題○荅●〔寄書〕●〔英語獨修〕ニユーナショナルリードル直譯

女學叢誌

○婚姻論　第三

第二期の一妻多夫の時代とハ一人の女子が數多の男子を婚する事にして乃ち多夫多妻に尋で興るところの習俗なり多夫多妻よりハ聊か進みたるなりといへど多夫多妻に少しく制限あるのみにしてその蠻俗たるに於てハ大いなる違ひあらざるなり

現にこの俗ある人種ハ枚擧するに遑あらずして中にハ第三期の一夫多妻の俗と並び行はるゝものもまた少なからずと聞えたりその二三を記るさんにトダ人中にありてハ四五人の兄弟あるが中最も年取りたるものゝ妻を迎ふる事あれバその諸弟ハ皆兄の妻たるものを共同の妻となす事を得またチイル人中にありてハ一たび嫁したる婦人が同時に十二人までの良人を有する事を得るといひその他カリブ人エスキモー人ワラン人中にてもまた婦人ハ重婚となすの權利を有しカナリー嶋に住せる人種中にもまた一妻多夫の俗行はれ太陰の一たび運行する毎に一夫を増すものありといへりセイロンの内地に於ても此俗行はれ就中富豪家ハ三四人或ハ七人の男子共同して一妻を有するものありその男子ハ多くハ兄弟たりといひその他この風俗ある社會ハ野蠻人種中に少なからざるべし

扨て一妻多夫の俗行はるゝハ次に述ぶる強奪婚の俗あると同く男子の數に比して婦人の數少なきが故なりといふ說あれどこれ決して信ずべからざるの說にして強奪婚の行はるゝ社會にありても一夫多妻の俗あるを以てその然らざるを知るべきなり或ハ總て野蠻の人民ハ貧なるにより一人の男子が數多の女子を專有すること能はざるがゆゑなりとの說もまた信ずるに足らずして前に記るしたるが如くセイロン内地の人民中にハ多く富豪家にこの俗あるを以てもその然らざるを知り得らるべしされば如何にしてこの俗の起るかハ後に至り詳論すべきなり

一妻多夫の中にもまた進化の上に於て下等の一妻多夫と高等の一妻多夫との二種ありて下等より高等に進み行くものなり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と見えたりその第一種即ち下等の一妻多夫といふハチイヤ人中に行ハるゝもの〻如く一婦人の夫たるもの數人ありといへど素より誰彼の制限あるにあらざればその男子ハ相互ひに血縁なきがゆゑに前號の女學叢誌に論じたるが如くその間に生れたる子女ハ皆母たるもの〻み確定し父たるものハ數人中その誰なるや知るべからずしてその子ハみな半兄弟半姉妹たるを以て多夫多妻と異る所ハ稍その區域の狹隘のみされバ一家族結合の力弱き事多夫多妻と大なる違ひあらざるべし是より少し進みてハ數人の夫たるもの〻中にハ多少血縁あるものもあるに至り更らに進みて第二種の高等一妻多夫といふハ方今チベット國に行ハる〻もの或ハ前に記るしたるトダ人中に行なはる〻もの〻如く數人の兄弟中に一婦を迎へて兄弟共同の妻となす俗習なるがゆゑに其間に生れたる子女ハ數人の兄弟中誰の子なるやハ知り難けれども父たらざれば叔伯たり子たらざれば甥姪たり之を前の第一種乃ち下等の一妻多夫に較ぶればその區域益々狹隘して稍々一家族の形をなしたるものといふべきなり

然れどもこの俗もまた多夫多妻の蠻俗を去る事いまだ遠からずして永く社會に存在すべきものたらざるハ多夫多妻と異なるところなかるべしされバまた進化の定則に從ひ社會發達の上に於て今一層利益ある風俗の起らずんばあらざるなりゆゑにこの俗の衰ふるもまた多夫多妻の俗の衰ふるに均しかるべく殊に高等の一妻多夫にありてハ兄弟墻に鬩く事なしとすべからざれバこれか爲進化を速かならしむる事少なしとせず

◎中外新報

○行幸　行啓　聖上皇后宮にハ來る七日午後三時御出門有栖川宮邸へ御臨幸遊ばされ皇太后宮ハ來る八日午後三時御出門同宮邸へ行啓遊ばさるゝ旨去る二日仰せ出されたるよしに承たまはる

○大舞踏會　本日午後より有栖川宮邸に於て大舞踏會を開かせられ海軍有志の舞踏會員をも御招きあらさする由

○有栖川宮御息所　にハ東京慈惠醫院の義につき去る三日午後七時より貴顯紳士と鹿鳴館に招かせて御相談ありしやに承たまはる

○御覽の演劇　去る廿六日井上伯爵の邸ゑ行幸あらせ給ひたる時御慰みのためにとて伯爵より聖覽に入れ奉られたる演劇（第一）勸進帳（第二）北條高時（第三）綾釣三番叟（第四）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

漁夫の戯れ（第五）元錄踊（御好み）山姥、夜討曾我にして翌廿七日皇后宮の御覽に供へられたるハ（第一）伊勢三郎（第二）寺子屋（第三）土蜘（第四）花見の賑ひ又た廿九日皇太后宮の御覽に供へられたるハ（第一）忠臣藏三段目（第二）同四段目（第三）義經吉野山雪中の場（第四）六歌仙なりしと承はる此諸劇ハ皆その詞章の野鄙拙劣に渉れるものハ改良を加へられたりと聞く殊に勸進帳高時伊勢三郎寺子屋土蜘の五齣ハ原より高尙の作なると今度更に末松謙澄君が校訂を加へて改良せられたるものなりといへば大にその美を添へたりと聞えぬ扨て我が邦に於て至尊の演劇を御覽になりたるハ此度が初めての御事とて此道に取りてハ前代未聞の大幸ともいふべく演劇改良の上に曙光を放ちたるが如き心地せられて是より演劇改良の緖につき明治の昭代を以て演劇道の新紀元と立たりとぞいふべき演劇改良家の爲にハいともありがたき事どもなり

○慈惠醫院へ御下賜　去る廿九日皇后宮より思召しを以て金二万圓を東京慈惠醫院へ下賜相成また自今年々皇太后宮皇后宮より各々金六百圓づゝ下賜あらせらるゝ旨を其筋より達せられたるよしに聞く

○養育院慈善會　去る廿一日厚生館に於て同會の委員會と開かれたる事ハ前號の誌上にも記したりしが今その模樣と聞くに澁澤榮一君假會頭となりてその席に就き議定員の選擧會を開く旨を述べ且つ東京府養育院の沿革を略述せられ發起人に於て假に指名したる議定員の人名を告げたるに出席員一同異議なきにより直に確定したる人名ハ伊藤伯爵夫人、高崎府知事同、三島道庸同、岩崎彌之助同、高嶺秀夫同、銀林綱男同、橋本綱常同、高木兼寛同、三井三郎助同、西村虎四郎同、伊達宗城同、澁澤榮一同、穗積陳重同、鍋嶋直大同、堀田正養同、中山孝麿同、沼間守一同、梅浦精一同、山尾庸三同、大倉喜八郎同、渡邊孝同、安田善次郎同、渡邊洪基同、松平定敎同、川村傳衛同、福池源一郎同、川田小一郎同、小嶋信民同、芳川顯正同、青地四郎左衛門等にして此中より會長副會長を互選ありたるよし扨てその決議の大略を聞くに會長を伊藤伯爵夫人副會長を高崎夫人澁澤夫人とて事務所を東京府廳内に設け議定員一同の會議を要する事あらば鹿鳴館を借用す」慈善會列品場を淺草傳法院と定む」列品賣捌人　諸遊人に委托す」列品の區畫を六區とし毎區凡そ十人の賣捌き人を置き外に計算取締方として一人宛を置く」優待券ハ各會員および一時醵金者共一名につき三枚づゝを配布す」通券二万枚を製し各會員及び區役

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

所等に頒布して賣却す但し一枚の代價廿錢」開會當日ハ門前に掲示して不体裁のもの〻入場を拒絶す」賣品ハ其商估に就て相場の物品と借受け賣捌き濟の上計算となすものとす但し場内に於ての賣却直段の原價の五割増より十割増までとしてその賣得ハ本會の収益とす其商估との間に於て原價を品定するハ相當の撿査員を設けて點撿査定せしむ」一時急施を要する事ありて議定員若干人の會同を望む時ハ會長副會長より指名してその出席を請ふべし等の箇條のよしなりしが諸藝人即ち俳優藝妓に賣捌き方を委托する事ハ聊の事情ありて見合せとなりしが愈々來る十五日より淺草本願寺に於て三日間開會する事に定まりたりと聞く嚮きに新橋柳橋吉原等の藝妓をして賣捌き人たらしめらるべしと聞えたれば日々新聞記者ハ買ふも憂し買はぬもつらし武藏鐙か〻る時にや客ハ死ぬらんと今より頭痛の紳士連(但し自稱)もあるよしと評せしアナ筆さがなき記者にぞある

○内約　華族女學校の生徒たるものハ父兄またハ充分監督の任ある親戚の同伴あるにあらざれば以來公會へ臨席する事をなさゞるべき規約を結び若し違背するものあらんにハ相當の罰を課すべしとの内約を結ばれしよし

○共立女子職業學校　の益々盛大に赴く事ハ度々本誌に記載するところなるがこハ素より敎授の人々の熱心なるところの方法の宜しきが爲なりといへ一つハ是まで斯る學舍のなかりしよりその創立あるに當り我も〳〵と入學せしより斯くハ速かに盛大となりたるにや然るにその生徒ハ多く近所より通學するものにて遠方より寄宿せるもの〻數ハ甚だ僅なりこれハ父兄たるもの〻一ハ寄宿料を出す事を厭ふと一ハ女子と手放しにして若し後日に間違などありたらんにハとの考へより職業を授けたきハ去る事ながら斯る事情あるより止を得ず近所の和服裁縫の師匠などへ通はしめおくものあるハ遺憾の事なると同校の重立たる人々が察せられ寄宿舍を設けて寄宿生を募るよりハ取敢ず府下に數所の分校を設け敎授時間を定めて敎員ハ本校と掛け持ちにして敎授する方法と定めんとて目下專ら相談中のよし

○女學校の出板物　下六番町なる佛語女學校にてハ校外生の爲に近々雜誌を發行しまた會話書をも出板せんとてその準備中なりとの事

○日本音樂會　の會員ハ來る七日午後八時三十分より工科大學の中堂に於て音樂の總稽古を催ほさる〻よし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○いろはぐみ　大阪なる舍友堯道春千代氏ハ今度いろは組といへる會を組織しかなの會に力を合さん事を發起せられたりとてその規則書を送られたり次號に掲載すべし

○成立學舍女子部規則（前號の續き）　生徒の志願により右の學科中一科若くハ數科を欠く事を得また一科若くハ數科を選修する事をも得べし但し選科生ハ課目により時間を増す事あるべし」生徒全科卒業の後教員たらんと欲するもの及び志願の者にハ尚は特別科を授る事あるべし」試驗を分て學期臨時及び卒業の三種とす」學期及び卒業試驗にハ試驗表を製し生徒の父兄若くハ保証人に送附すべし（以下次號）

◎學藝一斑

○食物の事（前號の續き）

有機體とハ元氣と作る生活せる機械にして他の機械よりハ一倍勢力あるものなるがゆゑに要する所の物質もまた一倍の多きを要するなり此要する所の物質乃はち外より入るものと外へ出るものとの比較をハクスレー博士の水に譬へられたるハ最も善き譬へにて池などに水の流れ入る時その押す力にて池中の水に渦巻をなさしむといへどもその水の外へ出る力と入る水の力と比ぶる時ハ大に減じたるを見るべしこれ初め入る時の力ハ池中にありて働きて水を動かすがゆゑに出る時ハその働きたる丈の力と減ずるなり人の體中に入る食物もまたこれと均しきなりビフステーキを喰する時斯る水勢の如き力ありとハ思はざれども其實ハこれあるなりされば食物ハ人の體中に入りて力を與ふるものにしてその外に出る時その量の減ずるハ體の動作となす力と體中に殘しおくがゆゑなり乃ち我々の食物を食するハ體の活動の力を得んが爲なり

扨て衛養といふ事につきてハその大略を述べたりしが衛養と受けて生活する事もまた衛養の一にして分離したるものハまた再び結合するものなり尚ほ手短かに衛養といふ事と解明さんにハ衛養とハ消費したる原形質を更らにまた作る事なりといふを得べし

（未完）

◎手藝一斑

○毛糸編もの

肩掛　長き木製の編棒を用ふべし

初めまづ一つと編みかゝその後ハ直ぐなる一邊の長さ五寸に至るまで毎行一つ宛を殖しその次ハ毎行の終よて一つ宛を減

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し棒に二つ殘りたるときその棒を拔くべし

右を中心となしこれに左の編方の縁と編み縫ひつくる時は甚だ美事なり此縁をあむには極細の糸にて第九號の針を用ふべし毛糸はセトランド毛糸といふと最もよしとす

扨て編方は針に十三編みかけて一行あむべし（沓下を編むごとく）

（第一行）二つあみ九つ縫ひ二つあむ

（第二行）二つあみて一つとなし、一つあみて、一つ拵ふへ、一つあみ、一つ拵らへ、二つを一緒にあむ事四度、一つあむ

（第三行）二つあみ、十一縫ひ二つあむ

（第四行）二つあみ、次の編目よて縫ひ、一つ編み、また一つ縫ひ、次のの編目を縫ひ、針に二つ殘るまでこの行の初めよりの編方を繰り返しあむべし

（第五行）たゞ沓下を編むごとくにあむべし

（第六行）二つあみ、終りの二つを内に縫ひ、二つあむ

（第七行）二つあみ、三つを一緒にあみ、一つあみ、これと六度繰りかへして、二つあむ

（第八行）そのまゝ四つ針をぬき、一つ拵へ、二つ一緒にあみ、針に一つ殘りたる時一つ拵らへ、一つあむべし

◎列女傳

編者白す前號まで引續きて掲げたる「藝妓小万の傳」は主任の記者眼病にて筆執ると難ければ本號は之れを預り置つ其の内には病ひも癒るべしと信ずるもの玉に変ふるに瓦を以てするの恐れあれど姑らく左の一章を掲げて病魔の退くを待つのみ幸ひに焉れを恕させ給へ

○相良秀彬が妻倭文女の傳上　香沁園主人　記

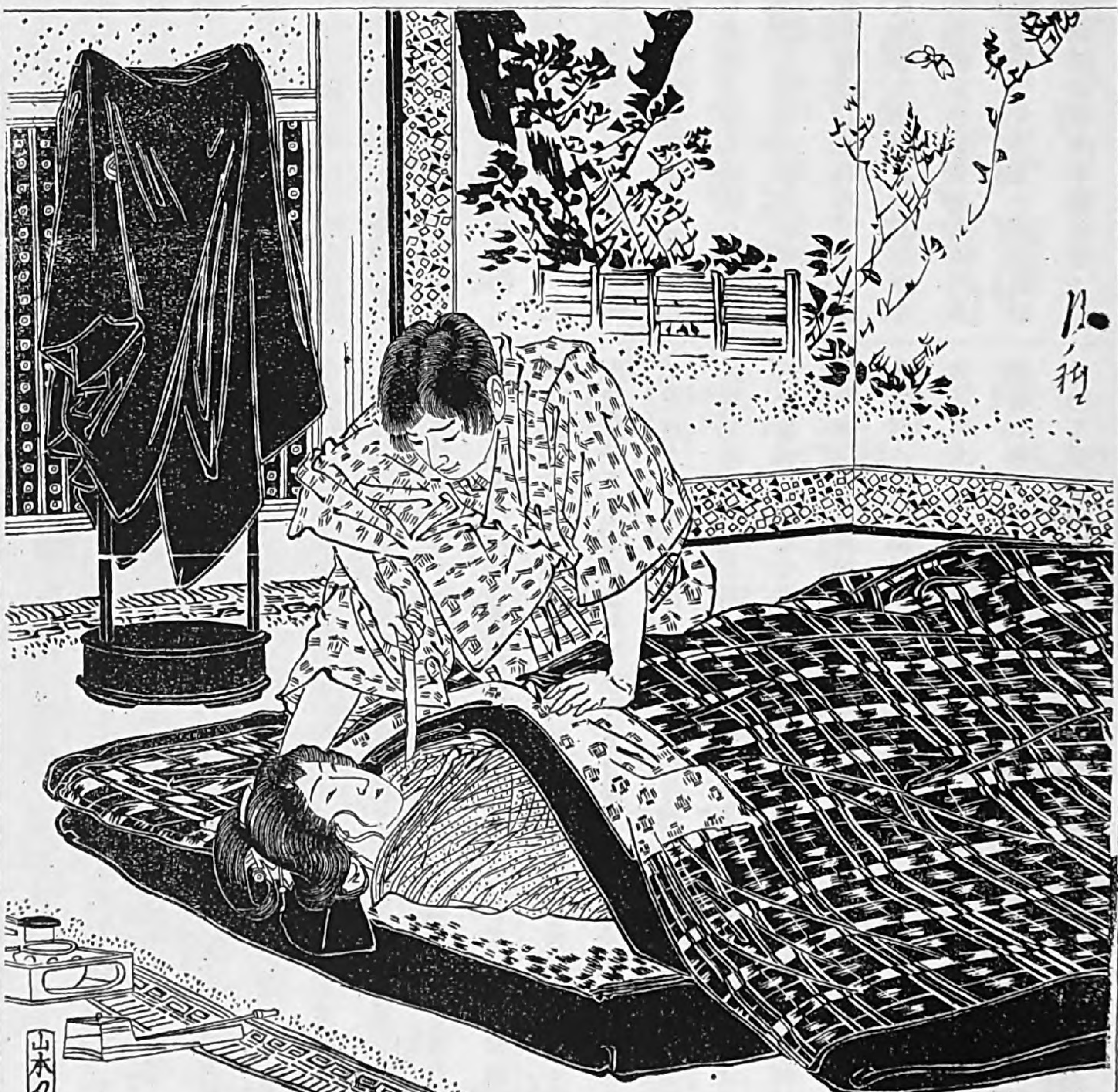
むつましき妹背の山のなかにさへ隔つる雲のとれずもあるかな」露と尾花の中にさへ爭そふふしはあるものと況て有情の人のうへ他に知られぬ和田海の底には波の立ちぬべし粤に筑紫の肥後國熊本城の或る町に狹多直彬と聞えたる貧しき士族のありけるが縣の廳に身を賣りて我が身一つを過さんと種々に仕官を求めしかど人の限りのある事とて容易く採用せられねば今は詮なし家を售り身を携へて東京へ活路を開くに及くはなしと多くもあらぬ家財をも皆な悉く金に代へ海山遠き旅寢と重ね出京したれど青雲は何處も同じ路遠く東奔西走と氣を配る其の効とてもあらざりしが幸ひ左院に出仕せる何某よりして正院の用度掛に推選をなすものありて十圓の雇ひに辛

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くも身を賣りつ活計の途も定まれば年弱き身ハ行末の出世ぞ心の力にて職務と只願勵みしかば上よ與る人々の覺えもなの〳〵薄からず年度變りの折と見て本官にせば可からんなど評定そるを洩聞きて狭多ハ心に勵みしとぞ同じく是も正院に御用を達せる市人にて相良實といふ者あり其の性質老實なる者なるが日々に用度へ出頭して買物御用を伺ふに手代と出すれ稀れにして多くハ主人が自身にて出頭せるに荏苒なく狭多とも入魂となりければ御用達の常として長く愛顧を受けんが爲めに退出の常の早き時ハ下宿住居ハ物事に不自由勝のものなるに今日ハ幸ひ御退出も早く是れより下宿へお歸りでハ餘りに退屈なさいませう見苦しうハござれども拙子宅へお立寄り成されてお茶でも召したのち御足伸しと成されませと誘はるるに直彬も與に主人の言ふ如く語る友なき人の桅かりの宿居の物足ぬ机の塵を掃ふより芳志に從ひ休息と求めんものと思ひしかば直ちに主人よ伴はれて丸屋町なる相良へ徃きうち説け語らふ其の中に設けの酒肴を持運びて態と一酌獻じたしといはれて狭多ハ迷惑氣よ辭退をすれば主人の實迚も御口に合ふものハ有りますまいが下宿にハ清潔丈けが勝しでせうお取擠ひを申さぬのハ若しけん○○○○もんの爲めなど〻後日に人の取沙汰を聞くのが嫌さに失敬とハ存じながらも手料理で只お夜食を進げるばかり御介意なさらずお過し下されと徃渡つたる口上と退げかねて 盃 と取上たるが平素より好む口とて數重なり心も膝も崩れつ〻我が身の素性を物語りさて主人が身の上を問にか〻れば主人も亦此の身ハ尾州名古屋藩にて小身ながら帶刀せしものなるが維新の折仕へを辭して商家に落ち今でハ漸く財産も調ひたりなど物語りて夜の更るのち別れしが醉たる目にも 俤 の遺るハ美人の化粧よて此時狭多ハ席上よ酌と取りたる實の娘お倭文を見しより歸りても猶ほ其の姿の目に見られ嬌差しげなる其の中に嫣笑を含みし肖像を深くも心に彫つけつ思ひ疲るまでなれば是れより用に假托けてハ親しく足を運ぶうち一家の者とも意解け互ひに親しみ重なるを實ハ篤と見究むるに朴訥よして飾りにハ少しく違き所あれど才氣の伸ぬ者ならで最も物よハ耐忍び艱苦を恐れぬ性質あれば此の人をてそと意を定め娘お倭文よ心中と聞けば是れさへ人知らぬ岩下水の心しもなきにわらねば打解けて狭多に猶予と成り呉れよと物語りしに然なきだに淺間の煙ハ絶えぬとも焦す懷ひハ努の間に絶ゆる事なく身を疲つ言はれぬ戀の底汲みて誰方の所望ハ立迷ふ津に舟と飛立つまで燕舞けるが唇の薄

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

き答へと云たらんにハ我が腹見られて後にこそ口惜き事のあるべけれと去り氣もわらぬ面色にて能く考へもし親族へも商量せでハ日を延し後より養子に行くとて怪しうハあらぬ旨を通じて竊かに調度に氣を配れバ相良の方でハ我れよりして無理を所望せし婿がね粗略わりてハ相濟ずと總て調度も身に引受け式目作法とつゆ紊さず媒妁人立て吉辰に愛たく婚入させたる上幾代變らぬ相生の松にも今宵ハ色添へて二世の契りを堅めける是より直彬相良と襲ぎ西院の方ハ身を退き岳父の爲めに商賣ひの手助けとのミ爲し居けるが此の直彬ハ精神の實着律義なる代りに物に慨する事劇しく曾て學びを熊本の加納慶三に受けたるが明治九年の秋



二百四十九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に至りて何れよりかは聞知りけん先師加納の名と以て書柬の到來したりしかば取る手遲しと啓き見るに此度天下の大事に就て同志を集め相謀る處もあれば速かに歸縣せよとの文面なり何事なるかは知らねども天下の大事あるからとは打棄て置くべき事ならず倩々心に考ふれば寔に先年艱難と共にすべしと誓ひたる事のありしが其の誓ひを師は違へずとて遙々と迎へられたるものならん夫れを樂々此處に居て背くは義のなく勇のなき最耻かしき所行なりと俄かに思ひ定むると良人の容子の怪しさに窺ふお倭文と顔と見合せ互ひに心に驚きを色に出さず居たりしが見られし上は尋常に往くといふとも女の愚痴事の心も知らずして引留めんは必定なり然りとて往かねば誓ひと破り猶ほ其上に色慾に迷ひし者とて笑はれなん明日とも言はず今夜のうち忍び出るに及くとなし若し目敏くて引留めなば不便ながらも我が手に懸んと決心しつゝ其の夕は唯だ他所ながらに酌交す夕餉の膳の酒宴も別れのしるしとて心に祝し常より早く臥床に入りしが直彬更に眼も塞がずお倭文が方に氣を配るに彼方も我れに目を属けて睡みもせず見えければ佯り眠りて時刻を計り準備の短刀鞘を拂つて睡息を覘ひ窺ひ寄り左手に襟を緊かと捕り咽喉を目がけて突たりけり

◎論説

○女學生の心得（前號の續き）　穗積陳重君　演述

洋服の事に就ても一言いたしたらございます近頃あなた方の中にてもニタ子ろの外平服に適する服地にておとなしく上品なる洋服をお拵へになりましたは誠に結構な事でして前に申す經濟と美術と兼たるものを見受けます只今は日本にて洋服の行はれ始めたる所ですから別して洋服に變ずる費を省き洋服に移るには無暗に費が多いといふやうな感じを興させぬ方がよろしいと思ひますそれにつきまして西洋のファッション即ち流行と申す事は甚だ馬鹿らしき事じやと思ひます西洋にては昨日は増上寺の釣鐘か淺草の仁王門の灯提を見たやッな袴が行はれ友人を訪問するも門口より返らねばならぬ事があるかと思へばまた今日は應擧の畫ける幽靈のやうなるもすそが流行り夜會に招かれても二階に上る事で出來なかッたと申す奇談が 私 がイギリスに居る時分にありました必竟ファッションといふものは美術より出るものではございません仕立屋の金箱から出る化物でございます」次に髪飾りの事と一寸お話申します髪の結ひやうも用と美を兼るが肝要です文金の高髷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

芝居のお姫さまのビラ、簪ハ成程美ハ美ですけれどもこれを結ふに時間と費し實業や運動に適せずこれハ美に偏重したものであります束髪ハ誠によろしい然れとも束髪の便利を貴び少しも髪飾りかまはぬといふ樣な流儀が時としてあるにハ閉口致します獅子の洞入三世相の荒神も餘り感心いたしませぬ故ニ同じ束髪でも便利衞生等の實益の基礎の上に幾分か美術の飾りを加へられん事を希望いたします」第三ハ動作の事に移りますが動作ニ於ても矢張實益と美術を兼ねずバなりますまい衞生に叶ひ實業に適する動作ハ即ち實用ある動作ですがそこであなた方に對してハ甚だ失禮でご容赦を願ひますが一般ニ申しますれバ日本の婦人にハ三つの惡き癖があると申しますそしてその三つの癖ハ身體の上中下の三段に分れて居るさうでも先つ第一にハ内足に歩行事第二にハ前に屈む事第三にハ頭を前に突き出す事の三つです斯く頭も腰も足も惡いと申せバ殆んど身躰中悉く兩手ばかりが幸ひにして非難を免れたやうなものです内足と前に屈む事ハ生理上いかなる害があるかハあなた方も既にご存じの事と思ひまそし他に少し理由がありまして今日ハお話し申しません首と前に突き出す事ハ或るお醫者が日本の婦人の首ハ菓物か何かのやうに胴になつて居ると申しましたが隨分酷な評です然し私の考へますに是ハ元髪の結ひやうより起りしものであらうと思ひますタボと出しまするとドーしても首が前へ出る勘定です試に日本風の髪の結ひたての婦人をご覽なさいタボが後の襟につかへ餘程苦しさうで左右へ振りむく事さへ不自由のやうに見えます是ハ束髪になりまするとタボがなくなりまた洋服になりまするると平服ハ胸が開いて居りませんから自然に直りませう又右の三つハ聯續して居るものでして頭を胸の前より肩の上まで持ち上げまするると自然と腰も延びまた足も直るやうになります右の三癖の中ドレのふ直し始めてもよろしいと申す事です」右の如く腰を屈め首を突き出し内足に歩行くハ美術に適ッた位置でせうか優美な姿勢でせうか決してさうではありますまい實用にも美術にも適はぬものと思はれます西洋の學者も姿勢を論じ「生理に適ひし運動ハ最も優美なり」といひまた「優美とハ生活位置及び力を儉約したる位置及び運動なり」と申しました然らば姿勢動作に就ても美麗と實益を調和するハ容易な事でございます

（以下次號）

○仕來の事（前號の續き）　矢田部良吉君　演述

それゆゑに私の貴孃方に望む所ハ貴孃方が如何なる賢婦人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

であるとも能ある鷹ハ爪を隱すといふ俚諺に從ひなるたけ平世の言行ハ內塲と旨として優美温良なる女子の仕來即ち習せを守て能く交れば尙更の事鳥渡見ても優美なる婦人に相違ないと人に思はるゝ樣よせられん事でございます」斯やうに申し述べますると貴孃方ハ私が何やらヤカマシイ事を述べ立つると思ゑるゝかも知れませんが私ハ左樣な考へハございません私ハ貴孃方がお樂みの多い事を偏に望むものでございます私ハ自分でハまだ若いと思つて居りますが貴孃方の目から見れば年寄でせう併し若い時分よハ五六年の間亞米利加に行ッて居ッた事もありまして其時にハ貴孃方の樣な若い婦人方とも交ッた事もありまして今よその時の樂みハ忘れません彼の國にてハ交際上の仕來がチヤンと極ッて居りますがまだろの極を越さゞる限りハ隨分自由がありまして若い男子が若い婦人を訪ふて互に談話する事もありカルタ抔を弄びます事もあり又一緒に音樂會抔に行く事もあり又一緒に馬車で遊山に出掛る事もありまそ私の如き東洋の端から來て居ッたものでも短く言ッて見れば東洋の旅鴉でも聢としたる者と認められたかどうだか知りませんがお孃さま方との交際も出來るやうな社會の仕組ですから樂みになる事も多くありました併し日本にてハ急に亞米利加の通りに男女の交際を自由にしたならバ或ハ弊が起るかも知れません日本の社會の有樣が追々に進んで參りまして若い男も若い女も文明社會の善き仕來が心に染み込んで仕舞ッた後にハ亞米利加の通りでも差支ハございますまいが今日でハちと覺束ないと思ひます尤も日本にても貴孃方を始めとし文明の女子も文明の男子もありますけれどもそれハ甚だ少數ですから中々心をゆるす譯にハ參りません」さりながら私ハ貴孃方に何でも窮屈にして居られよと申す譯でハございません私とても芝居を見に行きましたり又芝居の批評を雜誌などに書いて送る事もありまそ又義太夫を聞に行く事もありますから貴孃方に向ッても斯樣なものを見たり聞いたりそる事ハ一切惡い抔と昔流の堅氣侍ひの樣な事ハ申しません私の主義ハ人間にハ樂みがなくてハならぬと申す事ですから私が當學校の和樂會に來まそるのも貴孃方よ下手ながらも西洋流の舞踏をお傳へ申さう抔と高慢な考へで來るのでハありません貴孃方の爲に自分の樂みを得また是ハ私の口からいッてハ可笑かも知れませんが貴孃方のお樂みも增うかと思ひますから來るのです私が少々學問を致すのも學問が樂みだから致すのです苦くるしいイヤ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

な事ハ大嫌いです自分が左樣ですから貴孃方もお樂みの多い事をひたすら望みます若い時ハ二度ハありません尤も年とッた時も二度ハありませんが併し若い時にハ身體も精神も活潑で面白いことも樂いことが澤山出來るものですから充分にお樂みなさるに越た事ハございません年とッて若い時の事と考へますと實に慕ハしくあるものでそさりとて無闇な事ハいけません樂みの間にも淑女たるの資格を失なはないやうに氣をつけなければなりません優美なる婦人社會の仕來をば守らなければなりません之を守らないと年取ッて後悔する事も往々ありますそして又教育と受けて心の優しい婦人ハこの仕來を守ッても決して苦になるものでハありません是ハ固より貴孃方の能くご存じの事です無理な事ハ永く世の中に行はるゝものでハなからうと思ひます」以上ハ甚だ面白くないお話でハありましたが近頃思ひつきました事ですから少し述べました若し此後にまた貴孃方にお話をする好き折を得ましたならばその時こそこれよりも十倍も二十倍も面白い事を申さうと思ッて居りますが是も不肖の私故出來るか出來ぬか知れませんが私の望みハまづさやうでございます貴孃方ハさぞご迷惑でしたらうその邊ハ平にご容赦を願ひます　(完)

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第一篇　南翠外史

第三　孀婦の知己

慈愛に疎き我が子お覺のあらく〳〵しき心を撓めて優美なる淑女に薫陶せんものをと思ひ立ちつる賢母お福美ハ活人畫の事を問ひ出たるを幸ひに我が教の師より聞傳へたるまゝに赤十字社の成立ちを物語りけれども籠入たる瑞西共和國の歷史ハ自らさへも會得し難き處多かるにお覺が心に銘り若くべき筈ハなければ改ためて慈悲心と喚起すに足るべき物語りして可愛の娘が注意と促がさんと思ひ立ちけるぞ殊勝なる

其の次の日ハ事なく夕陽を青山の方に送りて夕餉の膳に向ひつゝも一向何をがなと談話の脚案に苦勞したりけるが此のお福美中々の才女にて且つハ此程よりの物學びに文章氣さへ起りければ忽ち一つ趣工を腹中に稿して口の裏に之れが校訂を加へたり幾程もなく寐に就くべき時來ぬればお覺を携へて閨に入りぬお覺ハ枕をも就得ずして母が方に打向ひ「阿母さんアノ活人畫の畫の譯をお話しゝて下さいナ」母ハ偖こそと氣に張りを生じて「那れハ皆な詩だの歌だのゝ中から引出して

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其の内の文句を書に見立たのだから噺しにしても是れぞといふ面白い事ハないョお前も新聞を御覧だらう那の書の仔細ハ新聞にわつた丈けの事で別に噺しの玄やうもないから阿母さんが其の代りに面白いお噺しをして聞しませう、たがお前が優なしくして能く人の言ふ事を聴んと直にお噺しを止めますよ宜いかェ」と根を押せば「モウ決して悪戯も致しません阿母さんの被仰る事ハ何でも聴きますそから何うぞ其のお噺しを聞して下さいナ互生一生のお願ひですから」とて頻りに聞きたき風情なれば母ハ機嫌よく首肯て「孀婦の知己」を語り出ぬ

今ハ昔し深川佐賀町二丁目に鳥海總兵衛となん稱べる豊かなる市人ありけり其の祖父の代まではさせる身分にもあらざり玄が父なりける人智恵賢う萬に心利たる性なりければ祖父より讓られさる身代にて一生を終らんと如何も口惜き事に覺えて我れ此の家の紀念に何事をか遺さんものとと頻りよ心を碎きけるが利にハ速かなる世の容易く餘んの富を與ふべきやうもあらで只心をのみ苦しめる折から其の妻産の紐を解きて珍しくも男女の雙兒をぞ擧け〻る世に女夫兒とも珍重そるものなれバ其の者いたく悦びて七夜の日男子が後生れなれば之れを總領として總七と號け女子ハ先生れなれば妹として於ふたと號けつ双の王對の花と愛育て子の愛よハ何事も身を去るものとて思ひ立ちたる身代の事も姑しハ心よ浮ばざりしに矢の如く核の如き光陰經ちて二人の愛兒ハ虫の氣もなく成長すれども身代ハ父が讓りのまゝにして肥もせず肩丈も伸びねばまたもや之れに苦心玄たるが總七の十六といふ年の冬十月江戸にて大地震のありけるが忽ち火をさへ起して諸所大火となり之れが爲めに死するもの十万人と聞えける鳥海が家も此の禍災に遭ひて家を倒されたるに嘯海にて器具をさへ失ふと一方なふず夜と明す擔端もなくて妻子の外に泣かこつも哀れありか〻る中よて父ハ何を思ひけん傾覆りたる家を掻きて金箪笥と掘出しけるが妻子の爲めに家を求めんとハせず聊かの金を與へて汝等二人ハ是れにて右も左も二夜と明し明後日ハ此にて我れ等の歸るを待て總七來れと身を提さへて夜の深さとも厭ふ色なく東の方へ馳去りぬ妻子も今ハ詮んやうあらねバ幸くも二夜を泣明して其の翌る朝未明に約せし我が家のあはれバのりハ形代を止むる跡に到りて待ちけるに果して良人ハ總七と〻もに多くの農夫よ草鞋、繩、雞卵なんど夥多荷がせ自らも擔ひて歸り來ついざ江戸向と永代、兩國、の三ヶ所に三人手と分けて之れを鬻げ數多く得まはしと言ふ人あらバ我か方に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

來よと言へ直ハ云々より引く刎れ後荷ハ手金うちたれば物惜みせで商ふべしとて三人と出し遣りたるが斯る物欲しき折とて忽ちのうちに手金うちたるまでも賣盡し思ひ寄らぬ莫大の利潤をぞ得たりける是れより後ハ物事運弱きハなく二年が程に目覺しき豪家となりおふたも幸ありて麴町の何某と聞えし方に嫁ぎ其方の娘を總七が嫁として幸福のみ續きける然れども終焉の際にハ總七を招き寄せて我が家の斯く富榮えしハ全く人の不幸が僥倖となりしものなれば汝ハ此の恨みを消さんが爲めに多く慈悲善根を行へよ是れが我への供養ぞかしとて目を瞑ぎけり斯てのち總七ハ中院明けより總兵衛と改め父が遺言なればとて多く慈善を行ひつ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

又献金などしたりけるより其の善行と篤志とを稱され果ハ苗字帶刀を公けより許されて世に時めけろ身とハなりぬ此の總兵衛が妻ハ寔に優しき心懸の婦女なりけるが何のえにか子寳のわらざりければ之れとのみ苦に病みつゝ神に佛に祈請を籠めて善きといふ善き物を食べ養生に小歇なかりける爲め年を經て懷姙えたりければ天より授かりける者の如き心地して其の喜び比へんにものなく指折り數へて出産の日を待てバ生憎に月日の經つに最と長き思ひして港を見つゝ沖がゝりせる船客人が陸を望めるに異ならず兎角して八月を重ね今二月にて初子の顔見らるべしと一層待遠しく思ひけるに主人總兵衞ハ去り難き事ありて中國筋の諸侯が御入國に扈從すべき事出來つ私しを以て公けを棄がたけれど然ればとて嬰兒の顔を見ず妻が初産の難し易しとも見定めて啓行んハ情なし病ひを擕へて辞ひ奉らんか上を欺むくの罪いと輕からず何とかして身二つに成るまでハと妻が泣かこちて止むるを無情にも出行かバ產の障りになりもやせんと心を千々に碎けるうち明日の朝御發駕の由其の係りより最と嚴ろかに執達したり

ト物語るうち夜もはや更闌て覺えけれバ明日の晩にこそ語り繼め朝の遲なはるに疾く寐よとて燈火細めて睡眠むべし

◎家政要報

○羅紗の蠟などの附たるを拔く法　羅紗に油氣あるもの蠟脂肪などのつきたる時ハポッタッシユの溶解したる水にて容易の拔き取る事を得べけれども羅紗地を損ずる事あるによりよく〳〵注意して速かに冷水または硼礆水にて洗ふべしまた手輕の法ハ汚點ある所の上に吸取紙(ブラッチング、ペーパーとて書物をなしたる時インキを吸ひとらする紙なり舶來の紙を賣る商店にあり)を敷き火熨斗にてその上を摺る時ハ大抵ハ取るゝなり羅紗に蠟燭の蠟などつきたる時ハ松精油を以て拭くべし又ハ安息香油或ハ硫酸エーテルなどにて拭ふもよし羅紗にペンキの附きたる時も之と同樣の仕方にて落すへし

○蝙蝠傘　ハ追々時候に向ひ且つハ舶來骨の品少なきにより近頃相場を引き上げ越前屋のゴム綾にて舶來のパテン又ハ三重骨の上等ハ三圓五七十錢より四圓内外兩面の甲州絹上物舶來並骨ハ一圓四五十錢より二圓位並甲斐絹大形ハ一圓十錢より七八十錢和骨絹の安物ハ五十錢より一圓まで飾附きの婦人持二重張上等四圓より七八圓位金巾張の駄ものハ一ダース一圓八九十錢より二圓までの相場なりといふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○夏シャツ　十一二歳より十五までの小供シャツは近頃體操の流行する爲注文多く小供金巾製一ダース六十五錢同天竺九十錢十四五歳向き金巾八十錢天竺一圓二三十錢太人向き金巾一圓天竺二圓内外の仕入相場にて極上等舶來擬ひのキャラコ製は一ダース五圓位の賣直なりと聞く

○胡瓜　本年は季候不順なるがため昨年の今ごろに比ぶれば殆んど一倍も高く一寸位にて七八錢なりといふ

○白米小賣相場　は四月三十日より一圓につき(一等)一斗四升(二等)一斗四升六合(三等)一斗五升三合(四等)一斗六升七合(五等)一斗八升

◎御伽草

○數學問題(答は本月廿日まで)

金七百三十一圓あり今二百十五圓はこの幾何分なるや（攝津伊丹牛谷美子出題）

○考へもの〻題(同上)

(甲)堀川院の御時五月五日江師菖蒲を奉つりたりける狀に

進上
水邊菖蒲
千年五月五日　大江爲武

とありつる狀を帝殿上にいださせ人々に讀めと仰せられけれども誰もその心を知る人なかりけるに師賴卿其時彌少將とて侍ひけるが案じ得て讀み侍りけるとなん如何なる事にや（神田育英堂主人出題）

(乙)左の詩(岡山秋蝶園主出題)及び歌(美濃笠松菻蔭生出題)は歴史中の人物にて誰と詠せしや

熊館蛟營落日沈。宸輿何處乱雲深。單身衞得春宵黑。一樹櫻花照此心。

風の射る矢も通らじな今日よりは鎧ふ代る疊そめのろで

○前々號數學問題の答式

$\frac{2}{5}+100+\frac{1}{2}+25=1,1-\frac{2}{5}+\frac{1}{2}:100+25::1:x,\ x=1250$

答千二百五十俵(答者)東京飯田豊頴、今井つね、金村なか、中村かね子、岩川生、諏訪金子準藏、美濃笠松撫箏女史

○前々號考へもの〻解

(甲)護良親王(答者)東京今井つね、中村かね子、美濃笠松菻蔭生、伊豫星川とみ女、仙臺臼井ふさ、岡山高木かう

(乙)女郎花(句の頭字を取る)東京中村かね子、美濃笠松菻蔭生、伊豫黒川とみ女、千葉太田豊、大坂松澤うめ

◎寄書

○改良大阪地歌　大阪　花廼舍主人

左に掲くる二三の歌は大阪地歌改良有志者中に於て既に調を附して子女に敎ふるところの新作或は改正の地歌なり

くもにかけはし(大阪泉井秋一作、豊賀富壽一調)

「二上り」雲にかけはし、かそみにちどり、およびないとて、やわ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るはぐちよ」合　まなびのみちに、いり進む、ちゑはその身の寶にて、雲の上まで、のぼらるゝ、道ある御代のうれしさよ〱

新なのは（大阪山田淳子作、菊宮正雄一調）

「二上り　かあいと、いふことはたがはじめけん、ほかの國にはたぐひなき」合　わが日の本の神の代に、いともかしこき、諾冊の、神は夫婦の、かたらひに、おまのうきはし、御柱を、ゑめぐりまして、玉うきを、さしかはしつゝ、あなにやし、をとめとことと、のたまひし、うたぞいもせの、はじめなる」合　おもひまはせば、もつたいなうて、△ことばゐけたら、つゆのまも、なのはまとまれ、あさのてふ

吉野靜（大阪菟道春千代作、菊地房壽一調）

「二上り　ゑよしのゝ、山のゑふゆき、ふみわけて、いりにし人を、戀衣、きつゝなれにし、その君に」合　長きわかれを、嘆きつゝ、身まそふものは、杖と笠、かたみのつゞみ、かきいだき、伴のをのこに、はぶらされ、ゆくかたしらず、白雲に、はぎもわらはよ、うちはだし△血にそむわしは、進まねど、勝手の神の、廣前に、しばしぬかづく、ゆふだすき、かけてぞいのる、ゆく末は、よしつねの世よ、いませよと、おもふ心の、色に出て、戀とやよその、人はみん」合　吉野法師よとらへられ、君のゆくへと、もらさじと、たちまふすがた、うつりたる、そでふる山や、みかげ山、しづやしづ「しづのをだまき、くりかへし」合　むかしを今になすよしも、なく〳〵かへす、まひの袖」三下り　あはれもよはそ、たをやめの、すがたみだるゝ、そのひまに、君はおちのび、たまふらし」合　これまでなりと、おのが名の、靜に宮居、ふしをがみ、さしてゆくへも、しらゆきよ、きえぬみさをや、のこすらん、

○西洋流を好まるゝ婦人に質しまゐらす　　岡山　秋蝶園主人

近頃は頗る女性の敎育に世の人達が心を用ひらるゝところありがたけれ主人もまたこの事よ關しては心よ兎に角と思ひ侍る事もありけるものから二三の友人と圖る事ありき然りとて田舍の井蛙東の都の婦人方には爭でか及ぶべきその糟粕を受けてまた古昔の聖人の言の葉は東洋人の言にても好きは守らん事こそ望ましけれ最と進取の氣性には乏しと思ぼすべけれども主人は斯くぞ信じたる然るにこの頃其女性のものされたる文を見るにいと〳〵我が國婦人の力（總ての力）のなきを嘆き是非に西洋流に倣はねばならずと論ふはれ果は我が國を始め東洋の諸國にて古來賢き人といはるゝ方さへ不行屆き至極の女なり量見足らぬものなり惡風俗を殘せるものなりと罵られたり淑德高きや否は知らされども多年の積習を破ると自ら申さるゝ程ありて如何にも驚き入りたるお言葉なりかし夫れにつき我が東洋の敎と半文にもならぬ樣述べらるれど孔子の敎や釋氏の敎は左まで用なきものにはあらずかし我が東洋の敎有害なりといはるゝからには孔子の書は素より釋氏の敎典も一應は通讀せられしならんさるに一概に東洋の敎を打壞さるるは如何にぞや釋氏が一代說法の中には女子敎育の事よも殊に意を用ひ居て彼の某敎の後來揑造したるが如きものにあらずこれを學理に照すも亦た彼の茫漠たるものに似ず釋氏一代の女子敎育法と見たらんものは必ず某敎にあらずんば女子の地位と進むる事叶はじとは申すまじきに自ら我が國に於て比すべき婦人はなく東洋の書籍は讀了したりといはぬばかりに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

述べられしぞをかしさりとて己れハ西洋流を好まぬにハあらず善きハ飽くまでも西洋流を學び彼の國の婦人に負けぬやう願はしき事ながら今日の日本婦人の狀態にて東洋流の敎ハ害あり一も東洋人の敎ハ取るところなしといひて捨てたらんにいろの弊ハ幾許ぞ彼の婚姻法のごとき果して我が邦人より用ひて弊害なきやいと〳〵心元なし願ふに我が東洋の敎とて古來これをよく用ひなば女性の地位と高むべきに捨てゝこれを顧みずして今日の形況に陷りたるなり諸般の學理ハ孔子釋氏の敎に備はれり縱令不完全なるともこれを用ひて今日に及びたらんにいろの間に改良を經て効益を得たるの大なるべきハ盲を俟たざるべきに可惜埋れ木の花咲く時なく今日よ至りしこゝろ遺憾なれされば今日に當りてハ西洋の流義によるハ無論の事なりとハいへともさりとて我か東洋の敎ハ一も益なく害ありとて古昔の賢女をすら罵りて我が國の婦女の爲め悪風俗を殘せるものあり不屆至極の女なり量見足らぬものなりといふハ時と所とを顧みぬのみか眞にナマイキ千万たらざるを得ず今日自ら我が國婦人の積習を破るといへるものにして果して古昔の賢女といはれし婦人の地位と同じき事あらしめば如何にその身を處すべきや幾んどその身を汚してろの身を全ふするも知るべからずたゞナマイキなるハ此等の婦人たゞ憐れむべきハ古昔の賢婦人なり乞ふ自ら東洋婦人の陋習と破ると許しまた公言するの女性ハ飽まで東洋に於て有名の人士釋氏孔子諸子の書とよミて後ちにその有害無益なるを説け妄りに荒唐無稽の宗敎に據りて古人を罵る勿れ嗚呼世に斯る婦女子多し安んぞ我が邦女風の敗頽を怪しまんや

◎英語獨修

○ニユー、ナショナル、リードル直譯

〔第十四節〕㊀一ツ㊁一ツ㊂一ツ㊃小さき㊄犬㊅走ル●㊀二ツ㊁二ツ㊂二ツ㊃猫カ㊄汝ヲ㊅見る●㊀三ツ㊁三ツ㊂三ツ㊃木ニ㊄於ケ㊅鳥●㊀四ツ㊁四ツ㊂四ツ㊃床㊄上ノ㊅鼠

〔第十五節〕㊀アン㊁新シキ㊂人形ヲ㊃持ツ●㊀彼女ノ㊁母ガ㊂彼女ニ㊃迄ヲ㊄其ヲ㊅與ふ●㊀アン㊁人形ヲ㊂好む㊃而して㊄其ガ㊅新シキ㊆帽子ヲ㊇得ルヲ㊈有ふ●㊀汝ハ㊁善キ㊂少女デ㊃ある(乎)●㊀汝ハ㊁人形ヲ㊂好ミ㊃爲ス(乎)

NEW NATIONAL FIRST READER.

XIV.

ワン ワン ワン リットル ドツグ ラン
One, one, one, Little dog, run.
㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊄ ㊅

ツー ツー ツー キヤツト シー ユー
Two, two, two, Cats see you.
㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊅ ㊄

スリー スリー スリー ボードツ イン エ トリー
Three, three, three, Birds in a tree
㊀ ㊁ ㊂ ㊅ ㊄ ㊃

フオール フオール フオール ラッツ オン ゼ フローア
Four, four, four, Rats on the floor.
㊀ ㊁ ㊂ ㊅ ㊄ ㊃

XV.

アン ハズ エ ニユー ドール ハー ママ ゲーブ
Ann has a new doll. Her mamma' gave
㊀ ㊃ ㊁ ㊂ ㊀ ㊁ ㊅

イト ツー ハー アン ライキス ゼ ドール エンド ウイル
it to her. Ann likes the doll, and will
㊄ ㊃ ㊂ ㊀ ㊂ ㊁ ㊃ ㊈

ゲツト イト エ ニユー ハウト アール ユー エ グード ガール
get it a new hat. Are you a good girl?
㊇ ㊄ ㊅ ㊆ ㊃ ㊀ ㊁ ㊂

ヅー ユー ライキ エ ドール
Do you like a doll?
㊃ ㊀ ㊂ ㊁

二百五十九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

教育時論大改良ノ廣告

本誌ハ全國教育家ノ贊助ヲ得有力ナル賓友幕賓ノ多キコト全國ニ冠タル好雜誌ニシテ其目的ハ理學的ノ教育ヲ勸メ實業教育ノ方案ヲ極メ開發教授ヲ行フニ必要ナル諸學科ノ知識ヲ普及スルニ在リ其欄ヲ分ツコト左ノ如シ

一 社說 社中ノ意見及ビ卓識ナル教育家ノ意見ニシテ公正適實ナル者ヲ載ス

一 教育 教育ノ學說、施政、教授法等ニ關スル論說ヲ載ス殊ニ諸家寄送ノ論說ニシテ此欄ニ載スベキ材料ニ富メルコトハ是教育時論ノ擅場タリ

一 哲學 心理、論理、倫理等哲學上ニ係ル論著飜譯ヲ揭載ス

一 理科 生理、理化、礦物、生物、地文等ノ諸學ニ就キ新奇有益ノ說善ブベク樂ムベキノ學說等ヲ載ス是本社ノ最モ力ヲ致ス所ナリトス

一 文藝 文學ト技藝トニ係ル材料ヲ蒐輯スル一欄ニシテ假名會員ノ寄送ニ出ヅル假名文及ビ廣ク世ノ文藝家ニ就キ和歌、和文、新體詩歌、文學上ノ論說、教育家、學者ノ傳記、外國文學ノ一斑ヲ知ラシメンコトヲ務ム

一 雜纂 各地教育家ノ通信、內外教育上ノ事情、學術進步ノ景況等ヲ報道シ務メテ新奇確實ナルヲ要ス

定價及廣告料一覽表

{每月三回五ノ日發刊}

一切前金

本誌冊數	一冊	十冊	二十冊
定價代價	五錢	四十八錢	九十錢
郵稅	一錢	十錢	二十錢
合計	六錢	五十八錢	一圓十錢

廣告料 種類行數	通常	特別
一行ニ付	八錢	十五錢

右ノ如クニ御坐候間本誌御講覽下サレ候ハバ一擧シテ教育上學問上ノ景況ニ通ジ且ツ文藝ノ趣味ヲ培フノ稗ニモ相成誠ニ便益此上ナク候且廣告ノ儀モ本誌ハ最モ廣ク教育社會學術社會ニ行ハレ候者ニ就キ廣告ノ効能甚多ク候間陸續御依賴下サレ度教育家ノ轉居轉任等モ何卒廣告ノ御用仰セ付ケラレ度候

明治二十年四月

東京下谷區練塀町十四番地

通信講學會木局 開發社

● 國民の教育 每月四回發行

每郵定價金五錢 十部前金四拾五錢

本誌ハ凡ソ國民ノ教育上ニ關スル中外諸家ノ論說ヲ始トシ官報及ヒ府縣ノ通信歐米各國の來報等ヲ網羅薈萃シタル者ニシテ實ニ全國教育家必覽ノ好誌ナリ即今發刊願中ニ付不日允准次第逐號印布可仕候此段豫テ稟告仕置候也

馬喰町 石川書舖

○ 和漢古今名家詩文 圭玷新評 第六十三集 古道人總生寬著

每月二回發兌 定價金五錢外郵稅金壹錢

雉子町三十三番地 團々社

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ發誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ニて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 積文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野錦五郎

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌 修正堂

同 神田區淡路町 同 巖々堂

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY